



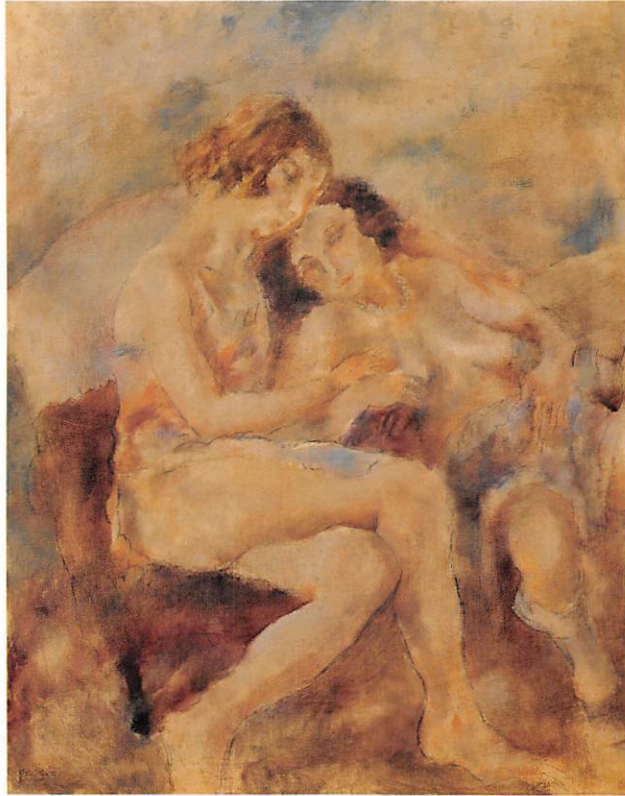
# 会 報

第28号

平成8年2月

社団法人 北海道美術館協力会

札幌市中央区北1条西17丁目 電話011-644-4025



一九二八年 油彩・カンヴァス九〇・五×七一・三 cm

## 新収蔵作品 ジュル・パスキン 「ジナとルネ」

昨年度までに北海道立近代美術館が収集してきたジュル・パスキンの作品は220点にのぼる。エコール・ド・パリの作家の作品を収集の柱のひとつとしている当館にあって、パスキンはその中心にあり、個人作家としては当館所蔵の中で一番の収集数になる。そのコレクションを更に充実させるために、今回この作品が購入された。

1928年43歳のパスキンは円熟期を迎えていた。同じ年に初の作品集がパリで刊行されている。翌年にはニューヨーク近代美術館で開催された「現代アメリカ作家19人展」の出品作家に選ばれる荣誉に輝いた（ブルガリア生まれのユダヤ人であったパスキンは第1次世界大戦を避けて渡米。あくまでもパリを拠点としながら、1920年には米国籍を取得していた）。人物画をよくしたパスキンにとって、妻や友人など近い人とともに、少女や婦人のプロのモデルを描くことがお気に入りであった。とりわけ彼女たち

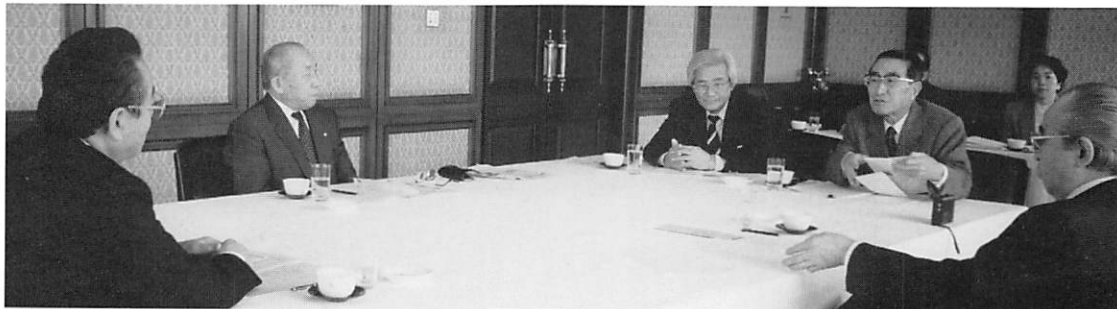
にグレーの絹のシミーズを着せ、下からやや仰ぎ見るような角度で描くことを好んでいた。薄い衣は彼女たちの肉体を裸である以上に官能的にみせ、下からの眺めはその肉体に浮遊感を与えている。人物の周囲はシミーズと同じ色調の乳白色で囲み、全体にくすぶるような倦怠感を漂わせる。典型的なコスモポリタンであり、ボヘミアンであることを自認していたパスキンの生き様が、そのまま作風に反映されている。

左の赤毛の婦人がルネ。パスキンが描いた彼女の単身肖像画（カリフォルニア、個人蔵）でも同じいでたちをしているが、手足の長い身体的特徴がよりはっきりと描かれている。左下にゴム印によるパスキンのサインが入り、ルーシーによる裏書きが、本作が1928年パリのクリューシー街36番地で描かれたことを示している。

# 多くのみなさんに親しまれ

## 気軽に参加できる協力会を目指して

協力会は、平成9年に創立20周年を迎えるにあたり、この節目をひとつの契機として21世紀にむけての中期展望や、記念事業の検討に取り組んでいます。今回は各界から理事をお引受けいただいている方々にお集まりいただき、座談会を開催し、忌憚のないご意見をいただきました。



司会 協力会は道立近代美術館と一緒に平成9年には創立20周年を迎えることとなります。そこで、理事を中心に記念事業のための検討委員会や、今後の本会のあり方を検討するビジョン委員会を開催して積極的な取組をしているところであります。

創立後の推移をみますと、会員数は約300人から1,500人に、会費収入も100万円から1,300万円に増加していることは嬉しい限りですが、今後さらに充実した活動を展開していくためには、さらに多くの会員の確保と基金の拡充が不可欠です。

今日は、今後協力会が発展していくためにどんな取組が必要かといった観点から忌憚のないご意見をちょうだいしたいと思います。

### 希望のもてるファンド拡充



鈴木 英二副会長

杉本 文化面について、外国のように行政がもっとお金を出すべきかと思えます。また一方、メセナも一時盛り上がっていましたが、こういう不況下ではファンドの拡充はなかなか厳しい現状にあると言えるのでしょうか。

司会 創立10周年のときは、美術館に名画を贈る運動を行なって募金により9,400万円ほどを集め、名画を贈ったわけです。当時は、経済状態も今よりは、はるかに良かったのですが、思いがけないバブルの崩壊で今となっ

ては20周年にむけてのファンド拡充は見通しが甘かったというか、スタートが少し遅れた感じですか。

企業などではお金を出しても免税にならないという税制上の問題がネックになっていることなどもありましてね。そこで、原点にかえて特に法人会員の拡充に努力したのですが、現状は100社程度という状況です。

伊坂 法人会員については、それぞれの人たちが努力すればまだまだ増やすことができると思います。たとえば子会社や関連会社に入ってもらおうとか。

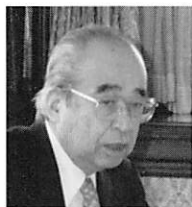
八木 バブルがはじけて、一企業として大口の寄付はたいへんかもしませんが、法人会員の会費3万円というのは企業にとってそんなに大きな額ではないと思いますし、また法人会員数が100程度とまだ微々たるものですから、関連会社の協力をいただければ相当集まると思います。



八木 一郎理事

また、企業ばかりでなく大きな団体、たとえば自衛隊とかJRなどにも応分の協力をいただくことはどうでしょう。お金を出す側としても、市民のオアシスみたいなところのためにお金を出すわけですから説明はつけやすいと思います。

伊坂 大衆性のあるものをやれば、みんな魅力を感じ入館者も増えますよ。しかし、いくらいいものを持ってきても、それだけでは駄目なんですね。マスコミ媒体を大いに活用すれば人は呼べます。



伊坂 重孝理事

司会 会員の美術展観覧については、現在会員証利用で道立5館のほか札幌彫刻美術館と芸術の森美術館を本人と同伴者1人が無料で観覧できるようになっています。これからはこの無料観覧の対象館を増やして、もっと魅力あるもの

にしていきたいと考えております。ファンドの拡充については力強いご助言をいただき有難うございました。

## もっと必要な多角的PRを

八木 どう考えても会員2,000人以下というのは少ない。札幌の人口・世帯数からいっても、もっと多くなってもいいと思います。せっかくいい仕事をしているのに知名度の低さが惜しいですね。PRはまだまだ不足ですよ。

司会 たしかにPR不足は否めないところですが、いま創立20周年にむけてイメージアップのための記念イベントを検討しているところです。また、「社団法人北海道美術館協会」という堅苦しい名称を、もう少しみなさんに親しまれるものにしたいということで一般から愛称を公募し年度内には決定することにしています。

伊坂 結構なことですね。より多くの人に知ってもらい、関心を寄せてもらうことは必要なことですよ。「協会が自分のためになる、楽しい会である。」といった面も強調してほしいですね。



杉本 拓理事

杉本 芸術の森では、「ロダン」「ムンク」の入館者が多かったようですが、PRの方法としては、人気があってたくさんの方が集まる展覧会のときに入会の呼びかけをしたらいかがでしょうか。協会を知ってもらうきっかけになる

と思うのですが。

伊坂 いま、美術人口というものはすごく増えていますね。東京もそうですし、ニューヨークに行ったときなどは近代美術館の「モンドリアン展」に列をなしているんですよ。

また、美術館の売店では質の高い、そこでしか売って

いないようなネクタイ・マフラー・Tシャツなんかのグッズ類がどんどん売れてミュージアム・グッズがファッションをつくっているようですね。そんなところにも人気の秘密があるのかもしれない。

司会 どこの美術館も、いまミュージアム・ショップに関心が寄せられているようです。近代美術館もそうして売店にたいへん期待が寄せられています。その期待に応えるために、売店のありようは抜本的に考えていかなくてはならない課題だと思っています。

杉本 三岸美術館のコンサート。あれはいいですね。近代美術館にはいいホールがあるんですから、かならずしも美術ファンでない人もコンサートで呼び込んで、美術人口を増やすというようなこともやってみたらどうですか。

八木 美術館はこういうことをやっている。協会というのはこういうもので、こんなことをやっている。そんなことを知っている人が少ないですよ。やっぱりこれらが浸透して、それじゃ美術文化を育てていこうという気持ちになれないと、金額にかかわらず協力というものが出ないのではないのでしょうか。

伊坂 美術館に対する援助協力のあり方なのですが、ボランティアのみなさんが年間延べ6,000人近く一生懸命協力しているわけですよ。そのうえにお金の面でも貴重な個人のみなさんからの浄財(会費)で協力するのはいかな



小川 亨専務理事

ものかと思います。また、必要なお金は道なり市なりに手当てをしてもらい、協会としては援助しないということを検討してもよいのではないのでしょうか。

現在、援助対象としている美術館は、もう育っているところですし…。

司会 近く愛称もできますし、冒頭にお話した20周年に関連したいくつかの記念事業なども春までに揃うと思っています。それらをとおして大がかりな協会のキャンペーンを考えていますので、よろしくお願ひいたします。本日はご多忙のなか貴重なご意見をいただき有難うございました。

この座談会の出席者は 伊坂 重孝理事(札幌テレビ放送社長)

杉本 拓理事(札幌都市開発公社社長)

八木 一郎理事(北海道拓殖銀行特別顧問)

司会は、鈴木 英二副会長・小川 亨専務理事が担当しました。

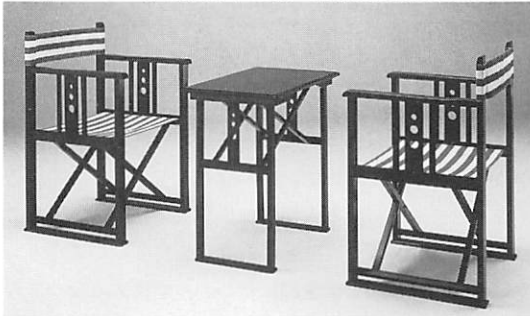
## 北海道立近代美術館

## 北海道立旭川美術館

### 1. 「日本工芸の青春期 1920—1945」

〔4月12日(金)～ 5月12日(日)〕

大正から昭和初期にかけて、日本では新たな工芸運動が花開きました。現代日本工芸の基礎を築いた「美術工芸」「民芸」「産業工芸」の3つの大きな流れを軸に、富本憲吉、河井寛次郎、无型、形而工房などによる作品約160点によって、近代日本工芸の青春期を展望します。



日本楽器「ヤマハ量産家具、折畳肘付椅子、折畳卓子セット」  
(昭和3年)

### 2. 「バイエラー・コレクション展」

〔5月17日(金)～ 6月16日(日)〕

スイスの古都バーゼルに住むバイエラー氏の絵画コレクションは、ヨーロッパの個人コレクションの中でも、その質の高さによって広く知られています。モネ、ピカソ、マティス、クレーなど巨匠の作品80点によって、西洋近・現代美術の流れをたどるとともに、その優れたコレクションの精華を紹介します。

### 3. 「ドイツ・フォルクヴァング美術館展 近代ヨーロッパ美術の巨匠たち」〔6月21日(金)～7月28日(日)〕

ドイツのエッセン市にあるフォルクヴァング美術館は、ヨーロッパ近・現代の美術を精力的に収集しています。そのすぐれたコレクションの中から、マネ、ルノワール、ゴッホ、セザンヌ、ゴーギャン、ムンク、カンディンスキー、ミロ、モンドリアンなど19世紀中葉から20世紀にかけて美術の変革の時期に重要な役割を演じた作家の作品を中心に、名作66点を紹介します。

### 4. 「秀吉と桃山文化」展

〔8月17日(土)～9月22日(日)〕

豊臣秀吉や安土・桃山文化の宝庫として知られる大阪城天守閣。約8000点のコレクションの中から、門外不出であった「大阪夏の陣屏風」をはじめ、彫刻、工芸、古文書等よりすぐった秀吉ゆかりの作品によって、豪華絢爛な桃山文化を総合的に紹介します。



パブロ・ピカソ「水差し・椀・レモン」1907年  
(バイエラー・コレクション展)

旭川美術館では、平成8年度も多彩な内容の企画展、特別展を予定しておりますが、その中から4月以降9月までの展覧会内容をご紹介します。

まず、4月2日(火)から、5月5日(日)までは、当館のコレクションを中心に、他の道立美術館の作品を加えて、北海道の自然と美術の関わりを紹介する「北海道美術の中の自然像」(仮称)を開催します。北の自然の中で生活し、思考する中から生まれた魅力的な作品を、幅広くご紹介する予定です。

5月25日(土)から6月23日(日々)までは「印象派からピカソへ——ノートン美術館所蔵フランス近代絵画展」を開催します。この展覧会はアメリカを代表する個人コレクション美術館から、ミレー、クールベ、モネ、ルノワール、セザンヌ、ゴーギャン、マティス、ピカソ、ボナール、シャガールなど、印象派からキュビズムに至る歩みを中心に、フランス近代絵画を代表する作家たちの絵画、水彩、彫刻約80点をご紹介します。その中にはミレーの「薪を集める人々」、マティスの「断崖・二匹のえい」、ゴーギャンの「庭での苦悩」など、各作家の意欲作、代表作が含まれ、充実した内容になっています。

6月29日(土)から7月28日(日)までは、「夢見る力 マリオ・チャーロリ展」を開催します。マリオ・チャーロリ(1938～)は、現代イタリアを代表する彫刻家で、1966年にヴェネツィア・ビエンナーレで受賞して以来世界的な注目を集め続けている作家です。その作品は板材から人、動物、蝶、花などのシルエットをくりぬくというユニークな手法で、イタリア美術の豊かな伝統と現代を結び付ける作品世界を展開してきました。本展では、彼が今年、日本に滞在して新たに制作した作品を中心にをご紹介します。その創造力あふれる「夢見る世界」が体験できることと期待できるでしょう。

8月3日(土)から9月8日(日)までは「古代マヤ文明の遺産展」が開催されます。これは道内では帯広美術館に引き続いて開催されるもので、旭川美術館では開館以来初めて古代美術を紹介する展覧会です。グアテマラの国立考古学民族博物館、およびボボル・ヴァー博物館のコレクションにより、紀元前300年から紀元1500年に至るマヤ文明の石彫、陶器110点に、現代のマヤ系民族の工芸、染織50点を加えて総合的に紹介するものです。現代から見ても非常にすぐれた発想に富む、マヤ文明の造形力と装飾性に触れる絶好の機会となるでしょう。

## 北海道立函館美術館

開館10周年を迎える平成8年度上半期の展覧会予定を紹介いたします。

新年度は、「東海道五十三次」で幕を開けます(4/6～5/12)。日本人にはあまりにも馴染みの深い広重のシリーズですが、本展は、アメリカで発見された初版の刷りの状態に近い保永堂版55点によるものです。また、それぞれの図版に合わせ、現在および大正時代の各宿場町の風景写真も展示します。江戸時代の情緒豊かな各宿場町の光景と同時に、東海道の移り変わりもご覧いただけます。

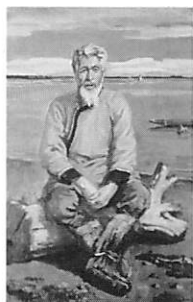
続く「マルク・シャガール展」(5/18～6/23)は、シャガールの代表的な連作版画に焦点を当てたものです。サーカスやポエム、聖書、オデュッセイアー、ダフニスとクロエーなど著名なシリーズが一堂に会する他、2メートルにも及ぶ異色のリトグラフ「屏風」など、250点以上が出品される予定です。版画になみなみならぬ情熱を注いだシャガールの幻想豊かな世界が展開されることでしょう。

6月末からは、道南ゆかりの作家シリーズの一環として開催される「木村捷司展」(6/29～7/28)です。函館生まれの木村捷司は、東京芸大を卒業後、戦前には樺太などの北方民族を主題として描き続け、戦後は、ヨーロッパを始め、シルクロード、西アジア、中南米などの風物をモチーフとして情緒豊かな作品を残しています。この独自の道を歩んだ作家の60年にわたる画業を、約80点の油彩・水彩・デッサンにより展望します。

8月には、10周年の記念展といえる「フォルクヴァング美術館展」(8/3～9/8)が予定されています。同美術館は、エッセン市の市街地にあるドイツでも有数の美術館で、質の高い多くの作品を所蔵していることで

知られています。そのコレクションにより、19世紀から20世紀前半にいたるフランス、ドイツを中心とした45作家、約70点の作品を紹介いたします。

なお、常設展示であるミュージアム・コレクションも、この時期には、道南の美術コーナー、鷗亭記念室、それぞれ2回の展示替えを予定しております。



木村捷司「河畔の老ギリヤーク」1939年

## 北海道立帯広美術館

平成8年2月以降の展覧会事業についてご紹介いたします。

2月3日(土)から3月27日(木)までは、「イギリス木版画展」を開催します。19世紀以降イギリスでは木口木版を中心に木版画が盛んに制作されました。高度な技法により精緻な図柄を生み出したそれらイギリス木版画の多くは、もともと写実的な挿絵として書籍を飾るものでした。しかし1880年代に写真をそのまま印刷する手法が考案されると、印刷美術の世界から離れ純粋な造形表現の手段として魅力的な作品を生むにいたりました。本展ではイギリス木版画が独自の表現世界を見せ始めた19世紀末から20世紀前半にかけての作品108点を紹介し、近代イギリス版画の系譜をたどります。

次いで4月9日(火)から6月2日(日)までは、「能勢眞美展」を行ないます。1887(明治30)年白老町に生まれた能勢眞美は、1925(大正15)年の北海道美術協会(道展)結成に創立会員として参加、また帝展、一水会展への出品を重ねるなど、戦前、戦後を通して北海道画壇の中心的な存在として活躍し、道内画壇の発展に努めた画家です。緑豊かな樹林や庭の風景を写実的な様式で描いたその作品は、今なお多くの人々に親しまれています。本展では初期から晩年に至る作品約100点を紹介し、画業の全貌を回顧します。

また6月8日(土)から7月14日(日)にかけては中央アメリカ帯に展開したマヤ文明の残した造形美術の世界を、古代の石彫や陶芸、さらには中米グアテマラのマヤ系民族の間で現在作られている染織品など約130点により紹介する「マヤ古代文明の遺産展」を、7月20日(土)から8月18日(日)まではハンガリーのブラハ国立美術館がほかる数千点におよぶ浮世絵コレクションから、喜多川歌麿、葛飾北斎、歌川広重らの優品170点余りを紹介する「ブラハ国立美術館所蔵浮世絵展」をそれぞれ開催します。



クロートン・ベリュー  
〈グロスターの小道〉1933年  
(「イギリス木版画展」より)

# 美術館ニュース

## 北海道立三岸好太郎美術館

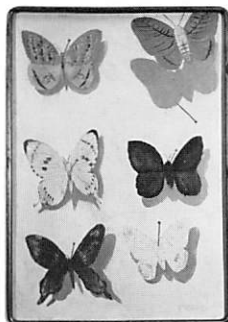
大正末から昭和初期にかけて、時代に先駆けた感性で意欲的に画業を展開しつつも、31歳の若さで没した札幌出身の画家・三岸好太郎。三岸作品245点を収蔵する当館では、三岸の画業について調査研究し、館蔵品を様々な切口で展示する所蔵品展や、三岸と当時の美術等に関わるテーマで館外所蔵の作品も含めて企画した特別展等をとおして紹介しています。

2月8日から3月31日は、所蔵品展「幻想の光景—蝶と貝殻」を開催します。三岸が最晩年に集中して制作した蝶と貝殻をモチーフとした作品は、新しい感覚の中に独特な幻想と詩情が漂い、今も多くのファンをとらえています。展示では、蝶と貝殻を描いた三岸の油彩や素描、また彼が手彩色の素描画集として刊行した『筆彩素描集 蝶と貝殻』など作品約20点と、関連資料を紹介します。あわせて三岸生涯の画業をたどる代表的作品も展示します。会期中の3月9日には、「美術館コンサート」の開催を予定しています。

所蔵品展は、4月以降、平成8年度も、数回展示を替えながら実施していきますので、そのたびに三岸画業の新たな側面をご覧いただければと思います。

平成8年度特別展としては、夏に三岸好太郎と三岸節子の“花”をテーマとした企画、秋には「北海道の夭折の画家たち」（仮称）を予定しています。夏の特別展では、芸術家夫婦であった好太郎と節子がそれぞれ重要なモチーフとして優れた作品を制作している“花”をとりあげ、各自の資質の違いとともに、写実をこえて花の本質にせまっていく共通の感性を探ります。個性的な花の姿をとおして、二人の生命感あふれる芸術をお楽しみください。秋の「北海道の夭折の画家たち」では、日本近代美術史の中でもしばしば重要な役割を担った夭折の画家たちに注目します。北海道にも三岸をはじめ、俣野第四郎、石野宣三、山本菊造、小山昇ら芸術を強く志しながら若くして世を去った画家たちがいました。彼らの未完成ながらも情熱とみずみずしい感覚にあふれる絵画世界をご鑑賞いただけます。

夏休み時期には、ワークシートを使って作品鑑賞を楽しむ小中学生向け企画「たんけん美術館」を実施します。気軽に参加して三岸作品や当館の活動に親しんでいただければと思います。



三岸好太郎「飛ぶ蝶」  
1934年

## 財団法人札幌彫刻美術館

札幌彫刻美術館では、3月24日（日）まで収蔵品展として「フォルムとその表情」展を開催しています。彫刻のフォルムの中に秘める表現や表情に、作家のどんな思いが込められているのかをテーマとした展示です。

平成8年度前期収蔵品展として「彫刻にみる母と子のふれあい（仮称）」（3月30日～7月28



本郷 新「顔のない母子像」  
1978年

日）を開催します。本郷新は、生涯に約400点の彫刻を制作している中で、ブロンズを中心に木やテラコッタを素材として16点の母子像を制作しています。最初は、30歳の1936年に制作し、代表作「嵐の中の母子像」を1953年に制作後若干空白がありました。そして、1960年「長恨碑」の木彫の母子像を制作後、野外彫刻を含め数点がけ、特に、72歳の1978年から集中的に7点の作品を制作しています。その中には、北海道庁前庭にある「北の母子像」や、本郷新が亡くなる前年に制作した木彫の「遥かなる母子像」があります。74歳で亡くなった本郷新の最期の作品が母子像でした。半世紀に及び彫刻を制作し続けたひとつの集大成が母子像だったのでしょうか。

本郷新の母子像の中で「嵐の中の母子像」は動的な造形をもち、たとえ嵐など困難があろうとも子を守り突き進む、たくましく力強い母の姿が表現されています。それ以外の母子像は、比較的静的な造形から母の子に対する慈しみや優しく見守る眼差しを感じます。その姿は、時代を越えこれからも見る人の心に伝わることでしょう。

今回は、本郷家から寄贈を受けた新収蔵作品から、母子像を中心にご覧いただけます。

特別展では、「第8回北の彫刻展」（8月3日～9月29日）を開催します。「北の彫刻展」は、北海道在住で第一線で活躍する作家の現在をご紹介します展覧会として、隔年で開催してきました。2年の経過の中で作家の軌跡がどのように展開したのでしょうか。作品がその全てを物語っています。

「北の彫刻展」では、これらの作品をご覧いただけます。どうぞ、ご期待下さい。

## 芸術の森美術館

芸術の森美術館では3月31日まで「美術に登場するもの〜モチーフとの対話」と題し、収蔵品による企画展を開催しています。テーマを、「Ⅰ 歴史のなかの人、物語のなかの人」「Ⅱ 日常の生活のひとこまから」「Ⅲ 動物たちと不思議なかたち」の3つに分け、作品に表現されたモチーフ（題材）に注目してそのモチーフと対話してもらおうとするものです。会場には関連するワークシートや解説パネルを用意しています。また、新たに収蔵した彫刻も展示しています。

続いて札幌の画家シリーズの7回目、「伊藤正展」（4月6日～5月6日）を開催します。本展では、生涯写真による制作をつらぬいた伊藤正（1915-1989）の画業を紹介いたします。

平成8年度は札幌芸術の森の10周年にあたります。芸術の森美術館ではその記念展として「ドナウの夢と追憶〜ハンガリーの建築と応用美術 [1896-1916]」を開催します（5月12日～6月16日）。ハンガリーは独自の言語と伝統文化を持つ国として古くから知られていますが、特にオーストリア・ハ

ンガリー二重帝国時代（1867-1914）には、産業革命の急速な展開によって、首都ブダペストを中心に都市文化が花開きました。ブダペストでは、兄弟都市ウィーンに匹敵する華やかなアール・ヌーヴォーの建築や応用美術、世紀末芸術が生まれています。本展ではこうしたハンガリーの芸術を建築図面や建築部材、写真、家具、陶器などで紹介します。



＜枢機卿＞1981年 ジャコモ・マンズー  
（平成7年度新収蔵品）

続いて「道標一生のあかしを刻む 柳原義達展」（6月26日～7月21日）を開催します。佐藤忠良、舟越保武と並び、日本の具象彫刻家を代表する柳原義達（1910-）は、道内では野外美術館の《道標-鴉》や釧路の幣舞橋の《道東の四季・秋》などで知られています。本展では初期から最新作にいたる代表的な彫刻と素描を紹介します。

また、野外美術館では3月まで冬季特別開放を行なっています（予定）。期間中は

カンジキ（無料貸出）を履いて、雪の中での彫刻鑑賞が楽しめます。

## 北海道美術館協力会の愛称が誕生します

協力会はまもなく創立20周年を迎えますが、道民の方々にあまりよく知られておりません。役員懇談会などでいつも話題になっていましたが、その要因のひとつに「社団法人北海道美術館協力会」という名称は、堅すぎてなじみずらいのではないかということが指摘され、みんなに親しまれるものにしようとして昨年末から愛称を募集しておりました。2月10日に締切ましたが応募作品は372点ありました。選

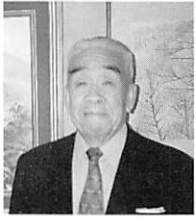
考委員による選考結果は3月上旬に決定の予定です。

この愛称は、これから専門家によってロゴ化し記念事業などを通じてひろく市民のみなさんにキャンペーンしていく予定になっております。電話などでの対応も検討していかなければなりません、新しい名称で当分ご不便をかける部分ができるかもしれませんが、ご容赦ねがいます。

## 美術研修旅行記

# 道内美術館めぐりに参加して

宮 永 重 徳



私は昨秋の美術館めぐりに引き続き今年も参加致しました。初日の10月17日は前夜来の大雨も夜明けと共にあがり、明るさも次第にまして幸先よき研修旅行のスタートとなりました。

私達一行35名のバスは学芸員の方の美の鑑賞についての説明を聞きながら、一路日高への国道を走りました。途中、特に印象に残ったのは樹海ロードでのうっ蒼とした山あいの森林でその名のとおり森林の海、その神秘さは私達に都会の煩わしさを忘れさせてくれました。

樹海を抜け出して日勝峠に登り、一望に眺められた山々は全山が赤や黄と色とりどりに色づき、一面に毛せんを敷いたようでその美しさには目を見張るものがあり、終日ドッカと腰をおろして大空の下、この大地で自然を心ゆくばかり満喫したいと思った程です。

神田日勝美術館に到着して、この研修旅行の最初の鑑賞となりましたが、日勝の個性あふれんばかりの筆さばきのタッチの鋭さと巧みに魅せられるものがありました。

そして雪国の農民独特の姿と生きざま、動物に対する愛情と強い観察力、その上数多くの大作には感銘を受けました。それにつけても若くして将来ある画人が逝かれたことは残念に思われてなりません。

次に薄暗くなった頃に坂本直行の美術館に入り、ここでは直行の山岳に対する強いあこがれと、山の美を飽くことなき迄に探究せんとする直行の気迫が感じられ、あらゆる角度からの様々の山の美しさを見ることができ、かつ又、この美術館は柏林の中にあって、流石に北海道の美術館と思いました。

忠類村は、ナウマン象で有名になった村です。一行は村に到着と共にナウマン象温泉ホテルに投宿しました。

このホテルは一風変わって都会のホテルとは凡そイメージが違い、前世紀的時代の雰囲気を感じました。

一夜あけて、翌18日は雲一つない快晴の日本晴れに恵

まれ、一行は思わず心中で歓声をあげたことでしょう。ホテルの周囲の公園は広々として、よく手入れが行届いて居り朝日に映える風景は特に美しく私達は爽快な気持ちに打たれ お互いに写真をとりあい公園散策のひとつを過ごしました。ホテルの近くにあるナウマン象博物館では12万年前の化石発見の様子や、当時の村人の驚きの姿のパネル写真、ナウマン象の実物大の骨格等が数多く陳列されており、興味深く心ゆくばかり地球の創世紀に思いをはせることが出来ました。引き続き帯広美術館に至り学芸員からスライドによる説明を受け館内を観賞しました。此処は殆どが外人の作品で、また変わった印象を受けました。美術館前で全員の思い出の記念写真をとり、美の探究旅行はこれで終止符を打つことになりました。

途中、かの有名な国鉄幸福、愛国両駅舎を島の彼方に遠く見ながら一路帰札の途につき、札幌に到着した時は眞暗で秋の寒さを感じました。この旅行は都会の騒音から逃れてよき天候のもと、北海道独特の山野で胸一杯、塵一つない空気を吸い心ゆくばかり美の探究を全員が和気あいあいとして楽しめた思い出多いよき旅行でした。

とにかく雑事に追われがちの中で自然と芸術を愛することは力強い明日への活力のもととなることでしょう。

最後にバスガイドさんの名調子も忘れられない思い出の一つです。ユーモアたっぷりのガイドでバスの中は終始爆笑の連続、まさにNHK毎土曜日、正午の生活笑百科にでる上沼恵美子の漫才調にそっくりで、私達を少しも退屈させることもなく、こんな愉快な旅はまたとないと思いました。





# アメリカ新大陸に名を残した 芸術家たちを訪ねる

橋本 朋子

10月26日、紅葉がとても美しいワシントンDCからはじまり、11月4日、快晴のニューヨークを発つまでの9日間、10以上の美術館や博物館を訪ね、古典的な傑作から現代芸術の粋まで、毎日のようにたくさんの、それも素晴らしい作品を楽しんでまいりました。

でも、一度にあまりにもたくさんの、それも傑作ばかり見続けていたせいか、逆にせっかくの感動が少し薄れてしまったのではないかとというぜいたくな感想がないでもありません。

そのためでしょうか、今ツアーを振り返ってみますと私をいちばん感動させ、圧倒し、驚かせてくれたのは、目の前に次から次へとあらわれる宝石のような絵画や彫刻以上に、アメリカという国、アメリカの文化そのものだったのではないかと思われてなりません。9日の間、アメリカという国に、毎日なにかしらの新鮮な発見があり驚いたり、感心したりしていたような気がします。

これまで、美術全集や複製でしか見ることができなかつ

た、たとえばピカソの青の時代の傑作、モネやセザンヌなど印象派の巨匠たちの光と形を巧みにとらえた名作、あるいは、フラゴナールやレンブラントなどの完璧なまでの手と目の動

きなど、など。こうした絵画や彫刻のオリジナルをちょっと手をのばせば届くほど間近に鑑賞することができる。それも、国松明日香先生の解説つきで。



確かに、こうした今や古典といえる作品たちの輝きと美しさはとてもすばらしいし、思わずためいきが出てくるほど存在感がありました。

でも、それ以上に現代美術の、それも抽象芸術の何と楽しげで、陽気で、生き生きとしていたことでしょうか。難しいとか、わからないとかでなく、新鮮で、ほほえましくて、何より色彩が、形が、シチュエーションが美しく素直に楽しく語りかけてくるのです。

たとえば、ボストン美術館で思わず見とれてしまったオキーフの“Yellow leaves”や、モンドリアンの“コンポジション”の美しさは忘れられません。

アメリカは若い国、いつも現在と未来の国だといわれています。それだけに、どこよりも現代美術が生まれ育つ国なのかもしれません。

今回の旅が、私自身にとって、はじめての海外旅行であったことを割り引いても、これまでの評価が定まった古典芸術だけでなく、現代芸術の新鮮な世界へと心がひらかれたこと、このことを収穫にあげたいと思います。

最後に、素晴らしい体験を支えて下さった浦田団長をはじめ、添乗員、ガイドの方々、そしてご一緒させていただいた皆様に改めて感謝申し上げます。



## マコンデ彫刻



佐土根 脩

秋の一日、有名な伊勢・二見カ浦に近いマコンデ美術館を訪れた。夢の実現に胸ふくらませて。館内に所狭しと二千字余りの彫刻群。いずれも強烈で、野性的、個人的である。狩りをする男、子供を負う女、太い木を抱える男。妖精や男女のフォルムを前衛的にまで磨き抜いた抽象的な作品群も目を引く。私がマコンデ彫刻を最初に見たのは五年前。大阪の民族学博物館の片隅で「人間ビラミッド」(高さ2・7歳)を見た時、思わず立ち尽くした。さまざまな表情の人々がビラミッド状に連なって支え合っている。一本の黒檀の木から彫り出した技の牙え。人類の誕生から現在までを象徴しているようなテーマの大きさ。そんな感動を綴った私の年賀状を見た友人が「マコンデ彫刻だけの美術館があるよ」と教えてくれた。マコンデ族は、東アフリカ・タンザニアの高原地帯に住む少数民族で、古くから素晴らしい彫刻芸術の花を咲かせてきた。彫刻するには堅固な黒檀を好んで素材にし、その枝や根の自然の形から、簡潔な表現で生命の賛歌を歌い上げている。若き日のピカソにキュービズムへの啓示を与えた、との説もある。それらを見る人の想像力を刺激せずにはおかない。私も円空の粗削りな木彫や縄文の土偶へと、自由に心を遊ばせる至福の一時を楽しんだ。

## 兵庫のこと



番匠 克宏

昨年七月から八月にかけて開拓記念館で「秦の始皇帝とその時代展」が開かれましたがその半年前の一月十七日の阪神地震で兵庫県立近代美術館や神戸市立博物館も私も被災しました。その「兵馬俑」が神戸市立博物館に来ることになっていました。馬俑も被災していた所でした。ところが被災した兵庫県立近代美術館は十ヶ月振りに去る十一月、「記念展・バルビソンの発見」でやっと全面再開にこぎつきました。(八月に一部オープン) 開館二五周年の館は九月に入館者が五百万人を突破しています。その兵庫県立近代美術館にも協会と似た会の「美友会」があります。会員数は七百人程です。「美友会」では学芸員による美術講座、作家のアトリエ訪問、ギャラリー巡り、建築学会等が定期的にあつて館での展示鑑賞会だけでなく会員同士や学芸員との楽しい交流があります。ボランティア活動は協力会の方が活発で見習う点が多いと思っています。いずれ兵庫に帰りますが北海道に居る間は道内の美術館を出来るだけ見て廻ろうと足を運んでいます。特に協力会の近代美術館(札幌)、三岸美術館、彫刻美術館、芸術の森に触れています。

## ミニ大通り



中塚 良子

私の住んでいる桑園：ここで思いのほか緑に触れて暮らしています。札幌駅までの線路に沿っての緑道いつも美術館まで通う、通称「ミニ大通り」、帰路の三岸美術館までの知事公館敷地内の遊歩道：ここは小川も流れていて、夏はお昼休み、サラリーマンがベンチでお弁当をひろげている姿をみかけました。お昼休みと言え、「大通り」も同じですよね：その上に、こちらは男性が円いテールを囲んでなにか相談している様を時々みかけました。まだまだ札幌ってゆつたりした時が流れているのですよね。(好きです) ここで秋深くなってから、まゆみの実を見つけました。赤くて、とても可愛いですよ。私の一番のお気に入り木の実はです。あの姿：固い殻が弾けて割れ、中から真っ赤なタネが顔を出す：その度に娘の名前まゆみと付けるのだったな：と後悔します。それ程のお気に入りです。でも私っていい加減なのかしら：諸々も含めて反省しています。これから季節、枝に雪をのせてリース編みをみている様な姿もいいものですよね。夏も冬も、いつもいつも歩いて自然を感じてたいです。

## 至福の時



菊田 友子

「あっ お母さん、また本買ったの。」居間の机に置いてある新しい本を見つけて子供が言います。毎日載る新聞の新刊本の案内を見て、読みたいと思った本があればその日のうちに書店へ出かけます。目当ての本を買い求め、その後ずらりと並んだ文芸書の棚をゆっくり見る。私の至福の時です。興味を引いた題、好きな作家の新しい本などを棚から取り出しページをめくりまわす。完全に自分だけの世界です。楽しそうな題に引かれ読んだ、知らなかった作家の本が思いがけずおもしろく、その後ファンになってしまったり、書店は新しい世界を広げてくれます。一日家で本を読むことができる、子供に手がかる時期が過ぎ、十数年ぶりに戻って来たこの時間、ゆっくり時が進んでほしいのに気がつくとは真暗。大変、子供達が帰る前に夕食の支度をしなくては。

新入会員の紹介

ご入会ありがとうございました（平成7年7月～平成7年12月）

7月（個人会員）	札幌市	門井 浅川	美恵子	札幌市	今三	井上	真知	弓子	札幌市	10月（法人会員）	札幌市
井口	光生	川羽	江二	札幌市	三小	上林	博い	子史	江別市	札幌銀行	札幌市
清水	久恵	天横	浩	札幌市	大石	小林	いく	史み	札幌市	木裕	札幌市
中川	時枝	内谷	百合	札幌市	佐倉	石倉	敬禎	み子	札幌市	金谷	札幌市
川内	紀佳	竹荒	美和	札幌市	大藤	倉藤	ミツ	子子	札幌市	佐々	札幌市
石田	義彦	井荒	洋子	旭川市	佐牛	嶋津	美津	子子	札幌市	木原	札幌市
田川	恵子	9月（個人会員）			梅石	嶋津	久寛	子子	札幌市	勝々	札幌市
隅田	容明	佐土根	脩	江別市	梅石	嶋津	久寛	子子	札幌市	八中	札幌市
8月（法人会員）	札幌市	中首	登学	札幌市	馬場	川山	和玲	子子	札幌市	齋藤	札幌市
とわの森三愛高校	江別市	堀井	和子	札幌市	黒池	平野	美純	子子	札幌市	福井	札幌市
8月（個人会員）	札幌市	赤白	恒泰	札幌市	阿久	野口	美和	子子	札幌市	白幡	札幌市
砂子沢	昭久	星井	朱美	札幌市	野口	野内	るみ	子子	札幌市	鬼澤	札幌市
滝沢	雅子	本中	真由	札幌市	中山	林内	イシ	子子	札幌市	野村	札幌市
長坂	美奈	田中	由美	札幌市	小内	山後	元良	子子	札幌市	森寺	札幌市
鈴木	美し	菊田	友子	札幌市	内山	佐藤	元良	子子	札幌市	藤田	札幌市
赤坂	久美	吉浦	新太	札幌市	山後	佐藤	元良	子子	札幌市	岡田	札幌市
浜野	かつ	武佐	子光	札幌市	三宮	小島	幸三	子子	札幌市	岡田	札幌市
内松	邦美	明本	子光	札幌市	小島	田島	幸三	子子	札幌市	岡田	札幌市
田村	寛子	川藤	子光	札幌市	小島	田島	幸三	子子	札幌市	岡田	札幌市
田原	昌子	尾本	子光	札幌市	小島	田島	幸三	子子	札幌市	岡田	札幌市
菅山	昌子	明本	子光	札幌市	小島	田島	幸三	子子	札幌市	岡田	札幌市
植山	明子	明本	子光	札幌市	小島	田島	幸三	子子	札幌市	岡田	札幌市
山松	恵子	明本	子光	札幌市	小島	田島	幸三	子子	札幌市	岡田	札幌市
藤井	江別市	明本	子光	札幌市	小島	田島	幸三	子子	札幌市	岡田	札幌市
安藤	札幌市	明本	子光	札幌市	小島	田島	幸三	子子	札幌市	岡田	札幌市
亀石	札幌市	明本	子光	札幌市	小島	田島	幸三	子子	札幌市	岡田	札幌市
山石	札幌市	明本	子光	札幌市	小島	田島	幸三	子子	札幌市	岡田	札幌市
小島	札幌市	明本	子光	札幌市	小島	田島	幸三	子子	札幌市	岡田	札幌市
梅田	札幌市	明本	子光	札幌市	小島	田島	幸三	子子	札幌市	岡田	札幌市

期待される創立20周年記念事業

平成9年度には、当会が創立してから20周年目を迎えることとなります。創立当初に比較すると飛躍的に発展を遂げてきておりますが、今後さらに充実した会としていくためにはいろいろな問題を抱えております。

その中で最重点課題とされているのは、会員の拡充であります。現在、関係理事を中心に、この課題を解決するためにどんな方法があるのか、また協力会をアピールするにはどんな事業が効果的かなど精力的に会議を開催して知恵を絞っています。

協力会が住民のみなさんに親しまれる会にするために会の愛称も募集しました。近くこの愛称も決定することにしてはいますが、記念事業を盛り立てる役目をしてくれるものと期待されています。

養成研修生特訓中

現在、事務局各部の構成は事業部8人、広報部14人、売店部43人、解説部53人、資料部33人、研修部5人、特別活動部12人で合計168人となっておりますが、新年度からこのメンバーに加わる新人たちが希望に燃えて勉強中です。

この部門別養成研修の先生役は先輩ボランティア等が工夫を凝らして担当していますが、テキスト作りから始めて大変な作業といえます。

昨年4月より開催したボランティア養成のための美術講座受講者約160人の中からこの研修生は合計34人で、その希望部門は広報部5人、売店部9人、解説部5人、資料部6人、特別活動部9人となっており、それぞれの部での活動が期待されています。

# この季節 シャガールの不思議な世界が 暖かーい

特設売店を開設 2/4~2/25

みなさんのおいてをお待ちしております。



シャガール — 愛のかたち展開催

2/4~3/3